

## 『心を育てる校長講話 実例105』

(明治図書、2021年2月発行)

東京福祉大学 非常勤講師 松原好広

2020年3月、修士論文の最終審査日の面接で、面接員の先生から、「広く世に訴えるため、修士論文を教育図書として出版したらどうだろうか。」というお話をいただきました。修士論文を完成させることで精一杯だった私にとりまして、これは思いもよらないお話となりました。

思い起こせば、指導教官の岩佐信道先生、授業でお世話になりました多くの先生方、同期の坂口幸恵先生たちと共に過ごした2年間は、私にとりまして、貴重な時間となりました。とくに、岩佐信道先生からご指導いただきました、廣池千九郎先生の「三方よし」の考え方は、私の道德教育の方向性を決めるものとなりました。このようなことから、2年間の集大成として、「心を育てる校長講話実話例105」の発行を決意しました。

校長講話は、道德科の授業のように、ある特定の学級で行うものではなく、全学級の児童、全教師の前で行うものです。児童や教師にとって、校長の考えや思いに直接触れ、普段、考えることのない貴重な話を聞く機会にもなります。担任の興味関心が高まれば、朝会后、学級で校長講話の補足説明をしたり、噛み砕いて自分の思いを説明したりすることもあります。このようなことから、私は、校長講話を充実させることは、大いに価値あることではないかと考えました。

本書の構成としましては、挨拶、いじめ、いのちなどのテーマを、意図的に同じ月にまとめ編集しました。これは、読者の皆様が、このように分類した方が活用する際、探しやすかったからです。また、ここに掲載した順番で校長講話を行ったわけでもありません。さらに、本書で紹介させていただいた校長講話のすべてが、「三方よし」を目指した校長講話というわけでもありません。ときには、季節的な講話、行事に関連した講話、人生論のような講話なども掲載しました。

しかし、年に一、二度、実施していた「心に残った校長講話」のアンケート調査によれば、「三方よし」を目指した校長講話が、児童にとって、毎回、「心に残った校長講話」の上位を占めることになりました。そのたびに、「三方よし」を目指した校長講話は、児童の心に確実に残っているのだと確信しました。

読者の皆様が本書をご活用される際には、皆様のご判断で、内容をアレンジしてご活用いただけましたら幸いです。そして、「三方よし」を目指した校長講話が、全国各地の小、中学校へと広がり、児童生徒の心を育てる機会になれば、これ以上のない喜びであると考えています。

